

# 京交山岳部報

No 385

'84 11月号

〔第1511回例会〕 奥美濃

## 越山と能郷白山

(T)

日 時 11月3日(土)~4日(日)  
コ ー ス 京都-大垣-槽見-大河原-大郷谷出合幕常  
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 2266)  
備 考 マイカーで行きますので担当者まで連絡してください。

〔第1512回例会〕 奥美濃

## 花 房 山

(T)

日 時 11月17日(土) 前夜発 小津泊の予定  
コ ー ス 京都-関ヶ原-揖斐川町-久瀬村小津(泊)…花房山  
担 当 者 九条 田中忠久(TEL 2351) 申込み〆切 8日  
備 考 勤務の都合により日時を変更する場合があります。

〔第1513回例会〕 村 宗松氏 退職記念登山

## 丹波 鹿倉山 548m

(R)

日 時 11月23日(祭) 局 みぶ 7時出発  
コ ー ス 京都-須知-菟原-深山林道-地獄尾根…鹿倉山…熊野権現…名勝  
“瀧水、見物…菟原-須知-京都  
担 当 者 高速 岡田茂久(TEL 3282)  
備 考 岩尾根コースを山頂へ、丹波地方の好展望台です。(一般登山道のコースもあり) “瀧水、?(ようワカリマセン。見てのお楽しみ)  
なお、記念品代(500円)及び参加者(1000円)は事務局 三橋(TEL 2215) まで申し出て下さい。

今月の集会

11月9日(金)

下鴨寮

〔第1514回例会〕 御在所

## 藤内壁 前尾根

(T)

日 時 11月24日(土)~25日(日) みぶ 13:00集合  
コ ー ス 湯ノ山温泉…藤内小屋幕営…藤内壁前尾根  
担 当 者 本局 広瀬光太郎、川原傳治 (TEL 3418)  
備 考 マイカーで行きます。とにかく一発行きましよう!!

### 企画運営リーダー会

11月19日(月) 岡田宅



## さわらぬかみに…?

岡田茂久

今年は例年になく山野におけ遭難事故が多かった。我々にとっても決して歓迎せざる偶然の遭遇による悲劇であることが多い。

“スズメバチ”。福井県の小浜市や岐阜県の金華山で高校生や小学生に襲いかかり、中でも大分県では山林の下草刈りをしていた農家の夫婦が全身を刺されて死亡している。

一昨年だったが山岳部の夏山トレーニングで、静原の東谷の小屋のハメ板に巣くっていたのをイタズラし数人が刺され一時パニックとなった。これは意識して巣をいちくったため襲われたが、何もしないのに襲撃されることも多いようである。もうずいぶん昔になるが、3人パーティで八丁平より峰床山へ向って湿原を迂回中に襲われた。トップの私は前方の藪に逃げ込んだがお尻を一発やられ、Yさんは目の上や腹等数ヶ所、Tさんも数ヶ所をメッタ刺し、もう峰床どころではなかった思い出がある。

何もしないのに襲撃してくるのは“キイロスズメバチ”というやつだ、同じ仲間の“オオスズメバチ”はキイロスズメバチの幼虫を奪って自分達の幼虫のエサにするので、そのためキイロスズメバチは人の足音や話声をオオスズメバチの襲来と勘違いし先制攻撃をかけてくるというのである。山道でいっほんたてているときなどに大きな蜂がまわりを飛びまわることがある。不気味なものであるが、これはオオスズメバチで手出しをしないかぎり襲ってくることはまずない。

蜂の毒は蟻酸であり、刺されると激痛が起こり局所には小さな出血がみられやがて赤く腫れてくる。これは蟻酸によるヒスタミン等の影響で血管が拡張されるためで、普通は抗ヒスタミン剤を摺り込み水等で冷しておけば治まるが、アレルギー体質の人はこの作用が全身に及ぶことがあり、この結果血圧が急激に低下しショックで死に至ることがあるということである。

他にも山野であまりあいたくないもの共がいる。我々の仲間うちでは遭遇を心待ちしあわよくばカマ焼きにと期待するご人もいるが、「マムシ」である。

そして我々の知識では南方の列島を除くと日本唯一の毒蛇は「マムシ」だけであった。ところが山野でよく見かける「ヤマカガシ」も深く咬まれると生命をおびやかされるということが証明された春、山の端のアゼ道等で小さなやつがちょろちょろしていることがよくある。つかまえて手の平にのせると小さなボールのようになりなんと可愛いものである。毒蛇でないと思っていたからできることであり、大きくなるとマムシより危険であるとは思ってもみなかった。

普通マムシに咬まれると毒牙の跡跡が二本つく。これが毒蛇の特徴であり無毒の蛇では毒牙がなくこの跡はつかない。マムシに咬まれた局所は紫色の皮下出血をおこし、放っておくと腎不全や心不全で死亡することがあるという。血清をうつのが唯一確実な治療法である。

しかしこれも人により程度が異なるようで、我々がかってよく入山した台高の八幡平の西浦老などは「これもこれもマムシにやられた跡だあー、毒を吸い込めばなんともない」とゴツゴツの手を見せてくれたものである。もちろん血清など気のきいたものは老には無縁である。むろんこんなマネは我々にはできない。しかし健康な大人ならば急にはまず命には別状がないということであるから、多量の水等を飲んで利尿をうながし、あわてずできるだけ静かに医者のできるまで急行し血清投与の治療を受けるのが一番である。

ところがである。「ヤマカガシ」には頼みとする血清はなく、これといった治療法も確立されていないので仕末が悪い。「ヤマカガシ」の毒は「コブラ」に匹敵するほどの猛毒であるという。

愛知県春日井市の中学生がこのヤマカガシをつかもうとして手の指の付根を咬まれ、手当をした医師も常識的に無毒の蛇咬症としての治療をした。ところがしばらくして意識不明となり病院に収容されたが、溶血性の猛毒のため全身の血液交換をしたが効果がなく脳内出血で死亡したというものである。充分に注意したい。

いづれにせよ山で蛇と出会ったときは、彼等を刺激しないよう静かに立去るのを待つことである。蛇にとって人間ほど恐ろしいものはないのであり、蛇が咬むということは、彼等の生活圏に土足で危害を加えようとする我々人間に対する当然の自衛手段で、その結果を蛇は自覚せず関知しないことである。スズメバチに対しても同様であり、人間も自然界の一部であるかぎりその節理に逆らうことはできない。お互いのテレトリーは尊重し我々も論ることなく謙虚な気持で自然に親しもうではないか。

#### 第1492回例会

## 若杉山（へそのない山）その他

伊藤潤治

5万分の一地形図一枚の中に△を有する1,000m以上のピークが17、600m～1,000m

までが22、そのほか独立標高点のある1,000m以上は6、600m以上になると20もある。何だかクイズのように数字ばかり並べてしまったが、一枚の地図の中にこれほど立派な山がニキニキ並んでいるのは珍らしいのではないだろうか。はたして、この地形図の名は？と行きたいところだが、それがさらに登山の対象としてみんながよく知っているような地方ならそんなにうれしくもないのだが、これが何と美作三湯で知られる奥津温泉のある「5万分ノ1、奥津」なのである。

今日は、この17座のうちの若杉山と泉山をやろうというのである。(京交山岳部報第216号1970年10月)

これが宮後君の名紀行「ヘソのない山」の前文で、これ以後13年を経過した昨年、彼の51回目の誕生日に当る6月17日、畑 照人さんと宮後君をしのんで若杉山にでかけたのだが、その日大谷の登山道は前日来の雨と濃霧と嫌な藪の三本立てで前進をはばみ、どうにも手に負えず敗退したのである。若杉山は残ったが、しかしこの山行で私たちは湯岳△1058m、大畝(大峰山)△976m、花知仙△1,247mが登頂できた。1,000m以上17座の若杉山、泉山につづいてだから残る△は13座、また600m~1,000mまでも21座に減った。これは宮後君の影の意志によったのではあるまいか。

この1984年も若杉山は彼の誕生日の登頂に決めてあったが、同志の畑さんが不参されるので、どなたかに同行をと思っている間に出発日がきてしまい、何だか宮後君に申し訳ない気がした。

今年の出発(16日)は、早朝から九州、四国地方の大雨警報が発令されたニュースを操返していた。去年も雨に降られたがこんな騒ぎはなかった。大雨警報といっても私の行動圏と違うので、無視して出発する。しかし目覚時計で無理に起床し眠たいのを我慢していたが、ついにこらえられず中国自動車道・赤松PAで休む。

こんな事なら家でもっとよく寝てくれれば良かったのである。睡魔と戦い長い運転は恐怖であった。これからは自然の目覚めにまかせねば損だと悟った。それから少し走って掛保川P.Aに入って朝食をとる。そこにはケアキ、クスノキ、サザンカ、サンゴジュ、セイヨウイボタ、白花の香るアペリアや、小鳥たちの清らかなコーラスがあって楽しくて食がすすんだ。

中国自動車道、院ノ庄I.CからR179号に移り順調な転がりて人形峠のトンネルを抜けた。去年は湯岳に登りだして雨になったが、今日は曇り空だが雲が高く明る。雨を免れそうである。三朝町穴鴨で勝山ルートへ左折、更に上西谷で大谷ルートを左にとり田代につく。その田代は強風の吹き下ろしで私は豆台風がきているのかと驚いた。けれど田代の人たちは、いささかの動揺もなく作業に従事されていた。

この風が雨を吹き払ってくれるだろうと思ったが、そうでなくて風がおさまれば大低雨が降るそうである。するとこここの風は風神の若い暴走族どもの、はしゃぎ廻りだろうか。今日は前座の山、千穂原(センボカハラ)△1,073mに登るのだが、三朝町役場の資料では田代峠から東北東に県境を登ると岡山県立森林公園の遊歩道がある、その利用がよろしい。をもらっていた。

しかし私はなるべく近道を登ろうと林道にその取付きを探しながら入ったが左岸を走るため充分目がとどかない、その内に右岸へ移って林道は終った。身仕度をしていると美装の中年婦人が一人

ゆるやかに下ってこられた。山菜採りとおっしゃるのに持物がなく、山の事は弟がよく存じていますからお尋ねになってみて下さい、間もなく戻るでしょう。との事だった。

しかし出発のあいさつをしようとしたら、その人の姿はなかった。間もなく戻る筈の弟というの姿を見せず、とにかくおしゃれ狂女とでもたとえればいいのだろうか、不思議な女がいるものである。

道草は延びていたが鉄の橋を渡るとよく踏んださっぱりとしたルートになった。すぐ左の植林内に作業道、いま渡った谷の左岸である。いい道が林道をたどらせ小さくほとぼしる流れをまたいでその谷ぞい道がよいので入ったが、南へ上って遠くなるので戻って東行の道につく。こちらは無用なのか茂ったくもの巣の道。谷に出て右岸に上り暫らくで尾根をめざすらしく右岸を後にするのだが、予想に反し右岸にもどる。

一部に崩はあったが快適に進み、湿地状になって不明になったが、疎らを縫ってちょっといくと夢のような道に出た。これが岡山県立森林公園の遊歩道である。西北へ約10分登ると千軒平、1090mの標があった。

宮崎日出一さんは1983年5月15日9時5分ここにお立ちになって -360度の眺め、大山三瓶、日本海が立派、道後山や猿政山も見えるのではなからうか(山岳巡礼第37号) - とお述べになっている頂きである。しかし私の場合は思わぬ稼ぎの一山であったが、ひどい強風のため立っているだけが精一パイで展望どころではなかった。わづかに千穂原、若杉山、アサジ山くらいが目に入った。

すばらしいブナの美林を約20分たどると、もみじ平につく。ここも宮崎さんの千軒平につづいての -II△の代りにしたらしい立派な檜がある- のご記述がある。その立派な檜は健在であった。しかし標石はなかった。この檜について国土地理院は、点名「田代、△1073m」の測量に、測量用語で「偏心」という処置をとった。偏心とは三角点の標石から直接周囲が見えない時、三角点の近くの視通の良い場所で周囲を測量し計算によってあたかも三角点の標石から直接測量したようにする方法、このような檜は一時標識と呼び標石は埋設しない。とご解説を下された。

すず竹の密生帯に踏跡を得て千穂原に向ったが、すず竹群を抜けるとまともに歩けない疾風、私はストックを支点にはいつくばって、ひたすら南無千穂原二等三角点大菩薩を唱えながら願望の二等三角点に到着したのであった。そばに測量に使用した丸太の三脚の横転があった。はげしい風にいたたまれずもみじ平の檜にもどり、祝盃もあり熱い昼食でくつろいだ。恐しかった風は硫黄岳(ハツ岳)で東昭次、賀嶋増造両君と吹かれた1979年10月21日がある。

こんな吹きさらしの「田代」の測量に、なぜ「偏心」が必要なのかと思い、「因幡伯耆及美作国二等三角点図」を出して見ると、田代からの勘测線は、神倉、大畝、泉ヶ山、~~山~~山、津黒山、半甲山、進藤ヶ池等に引かれてあり、この内、泉ヶ山方向は樹林であるためやむを得ず偏心となったようである。

千軒平に戻ると風は相変わらずで視界がせまくて暗くなっていた。田代峠へ下山しようと思い、きたけ峰1108mにつくと、ガスと風雨である。いったんは森林公園をあとに県境尾根を踏んだのだ

が、すばらしく続くブナ林浴と別れるのが勿体のうて、遊歩道にもどり傘をさして時間一パイブナ林浴をたのしみ、往路の谷を下った。この谷名を田代の田村晴雄区長氏は、いの谷(亥か猪か)とおっしゃっていた。昭和42年7月の奥津区葉に破線の入っている古道である。

いぜんとして強風、でも予言に反して雨である。だが、公民館を拝借できて有難かった。廊下に網を張りぬれ物整理、ガス水道完備12畳の和室で夕食、そのままシラフに納まった。

6/16 出発4:00 -中国赤松PA 5:04 ~ 5:45 -碓保川PA 6:34 ~ 7:25 -院ノ庄 8:01 -  
田代 9:24 ...P 9:40 ~ 10:05 ...遊歩道 11:32 ...千軒平 11:45 ...もみじ平 12:05 ...  
千穂原 12:16 ~ 12:26 ...もみじ平 12:40 ~ 13:05 ...きたけ峰 14:00 ...いの谷上部  
16:07 ...P 16:55 ...公民館 17:20

### 若杉山とあさじ山

朝まで風雨は休みなく公民館をたたき送電線をうならせていた。去年の大谷公民館での朝も雨だった。また若杉山の再登はできないのだろうか、今日はこの公民館で区民の慰安会が予定されていて風雨であっても私は長居を許されてなかった。早朝は食欲がおきない、愉快になれないから一層食べづらかった。準備がととのった頃若杉山のガスが晴れ風は強かったが雨は弱くなっていた。うれしくなって公民館を出て林道に入った。ぜいたくを云うようだが800m走って終点は当て外れだった。

なぜ若杉山が「ヘソのない山」か、宮後君の紀行によってみる。一かって今西錦司先生らがこの若杉山に登られた、ところがどうしても三角点が見付からなかったというのである。そこで今西先生から伊藤氏へ是非三角点を探してこいとお話があり一三角点のある頂上におりながら三角点がないという、この割り切れない気持は初めてである。最も高いと思しき地点にヤグラの残骸のようなものが草の中に転んでいたが、三角点らしきものは一向に見付からない。約一時間半、4人は物も言わずに石積をめぐったり、草をわけて広い頂上を何べんも探った。今西先生曰く「あの三角点を見付けるには土木工事が必要だ」と。

岡本氏は航空写真に拡大図まで用意して探して下さったが、遂に石は見付からなかった。三年後には航空測量が行われるとのことなので、その時には岡本氏にお願いして三角点探しは降参とする。ザンネンやらアホランイやらどうもすっきりしない。一ヘソのない山とはこんなにもたらないものかと、つくづく思った。一これは1970年の話であり若杉山には新しい三角点が出ていたと思ったのだが、昨年の準備中に念のため中部地方測量部へおうかがいをたてると、どうしたことか、「現在当地測では▲若杉山の三角点標石について調査していませんので現況についての返答できませんし、ということであった。

しかし昨年のぼった湯岳△1058mでは赤白の鮮やかな測量棒が立ち、この地域の観測施行を物語っていた。だから若杉山の観測も当然行われていると思ったのだった。それだから今年こそは「ヘソのできた山」になると確信してきているのである。林道終点から左にとっていくと、小道はゆるやかな尾根に上り若杉山北麓の新しい植樹地をたどる。雨具着用の行動だが強風が熱を奪ってく

れるので快適に進めた。一時間で緩やかな起伏の植樹地帯が終っていきなり雑林の急な斜面にかわるこれが少し成長した植林で踏跡はあるのだが、雑草群の優勢と風陰が重なっていららさせられ遂に鉦をふるうことになる。

可愛い岩壁を越え、ブナの混林をすぎ榎樹と緑草に迎えられて頂上近くになると強い風雨が吹きつけてきた。雨は少量だが風力が物凄かった。稜線に上ると右の岩場に測量棒があった、かまわずに頂上に向う。間もなく風にゆれて立つ測量棒が見えた。心がおどり胸があつくなった。しかし三角点の標石はなかった。測量棒があって、なぜ三角点標石がないのか等疑問を中部測量部にお尋ねすると、1. 若杉山の三角点は現在地理院で使用していません、とのこと。あの測量棒は地理院に関わりがなかったのである。2. 三角点の標石が見当たらないということですが、その事についてはこちらでもなぜか不明です。若杉山三角点は明治25年に設置以来移転していませんので、山の頂上附近が崩れない限りあると思えます。3. 場所によっては三角点が山の頂上にない事もあります。これは三角点を設置する際、当時としては頂上でないほうが有利な何らかの理由があったものと思われます。4. 若杉山三角点については、空中写真、地図等から判断しますと、最高所でなく北方50~70mの所にあると思えます。

以上のような解答であったから来年もまた若杉山にでかけねばならないのかと覚悟していたのだが、宮崎さんの思いがけない登頂があって「山岳巡礼第44号」に一若杉山南稜へ登ったがあとで考えると満更のルートでもなかった。道はないが歩き易かった。林道に出るといってもこの道は昔の牧場道でもう驛道になっている。荷物をデポして山頂へ、岩を積み重ねた牧場特有の山、  
Ⅲ△のはずだが30分間しらみ潰しに探したが標石はなかった。

帰宅後「1400山のしおり」を拜見すると、やはり不在となっている。一番高いところからやや北に測量棒が立っていて更に北の左側岩群にも測量棒がある。展望はむろん良いとあるのを幸にして、私はもう「ヘソのない山」にこだわるのをやめて若杉山行を打切ることにしようと思っている。往路を下山、あさじ山をめざし田代峠に向ったのだが、迷路を深入りして残念ながら田代峠にも近寄れなかった。公民館は宴たけなわであったから区長氏方へお礼をのべ予定の奥津温泉まで行かず、ふと心ならずも上斉原の白雲閣で泊ってしまった。

林道終点 6:43…植樹帯上限 7:50…若杉山 9:10~9:30…林道終点 10:55…田代峠林道終点  
…12:15~15:15…白雲閣 16:00

### 三ヶ上と……

はじめにこの日の予告、三ヶ上△1,635mは△1,035mに、三ヶ岳 1,012m、妹山 1,121.2mに訂正いたします。上斉原の朝は、田代の風雨が夢のように思えるおだやかさ、これから登る三ヶ上はまだカスをまとって眠っている。

早寝すべく昨夜弁当をもらい、支払いを済ましておいたが玄関の自動扉が開いてくれないのには参った。やむなく出入口でないところから脱出したが、これに懲りて向後は出口をきくことだろう。R179号から(約1.9km)寺ヶ原を経て林道をいくと、「登山口、これより2,200m」標があ

る。この下手に駐車。第一歩は清らかな流れをまたぐ、少しいけば右手に緑草のゆるやかな斜面が奥座敷を敷いたように下りている牧場風景がひらけた。ここには「ブルバードライン」の標と、そのスタンプが備えてある。空ではホトトギス、ウグイス、ヒバリ等が晴れ晴れとした声をひびかせていた。地上の草木は露を宿してびっしょり、露をふんでいくと細かい虫が飛びつき、むづがゆかったが愉快であった。

左に細い流れがあって、じる道をいき右下溪水のとどろきがして左折、やがて尾根に廻りこむとおおらかな高原状の牧草地で風がさわやかでこころよい。頂上へ1kmの地点である。

緑のなかのウツギのピンク彩りは鮮やかだった。頂上まで500m標から道は樹間に入り、ブナの深々と茂る暗いトラバースからロープを張った急坂、これを上ると篠竹地だが、早くも三ヶ上、1062m頂上標と山頂スタンプ台につく。そばに「昭和56年5月 基本測量 三角点」標。役行者像があった。■△1,035mは鞍部をへだてた西峰にあってちょっとした境地であった。

この三ヶ上の史跡について奥津町の田中靖二氏のご文献「三ヶ上山頂と役行者像と不動明王」がいただいているので、ここに収録させていただく。「吉田郡奥津町と同郡上齊原村の境にある三ヶ上山頂に修験僧の祖といわれる役行者と不動明王の石仏がある。戦国時代、この地方を勢力した毛利元就勢がこの地方の特産であった砂鉄を採取した折りに作り山頂に安置したものと推定されます石仏に彫られた像は見事なものである。像は頂上の岩場に立ち、南は奥津温泉を北西に動燃開発事業団のウラン濃縮パイロットプラント工場を見下ろしている。三ヶ上山頂の役行者像（石の高さ、65cm）側面には天正元年（1573年）の年号と世話人として「備後の国神関郡相戸邑、月坂弥三郎」の名前が刻まれておる、戦国当時、作州には尼子を破った毛利勢が侵攻していた、元就が中国山地の鉄資源に目をつけ採鉄したことがわかる。

前記の「月坂弥三郎の出身地」相戸邑は現在「広島県神石郡神石町相戸と思われる」従ってこの神石町相戸は元就の本拠地広島に近いところから恐らく採鉄作業の親方として元就の命を受け、この地方で活躍したのでないでしょうか。地元の出伏などの信仰的であった役の行者の像を作り採鉄労務者を手なづけるためのものではなかったかと想像される。近くにある不動明王像は（石の高さ約70cm、像の高さ40cm）、銘は天正4年（1576年）とある。役行者の信仰に合わせて4年後に立てている。この二つの像は地元にある石質と異なって花崗岩であるところから、わざわざ備後の出身地で造らせて運んだものではないかと思われる。特に役行者像は実にいい顔をした彫りで見事であり、美術的にも優れている。ともあれ当時備後地方の武将が刀、ヤリなどに使う砂鉄の魅力により、前記のように信仰と結びつけて採取したことがうかがえる。

三ヶ岳を妹山に訂正したのは「岡山の山のぼり」によるものである。妹山の登路は明王寺を経るたのしそうなルートを一ヶ上から確認できたのであったが、私の心はあさじ山から離れず、またこの山を残してしまつた。往路をもどったが露はすっかり乾燥し、細かい虫も出ず汗を清流で拭いたり爽快な下山だった。

## あさじ山



あさじ山の名は奥津町の通称だそうである。始め「あさじ」は、浅茅(まばらに生えたチガヤ、広辞苑くらいに思っていたが、昨年錦山荘滞在中に支配人の田中靖二氏から、あさじは植物名で樹皮は繊維が縋に、幹は牛の鼻輪に、うるし科で楷の木、学問の樹であるというご説明があった。

早速牧野植物図鑑をひもといたが困ったことに出たのである。田中靖二氏に格好をかまわずお尋ねしたが、一方宮崎日出一さんには「山岳巡礼第37号」で、京交山岳部報6月号に「あさじ山」として報告されています。とご披露いただいているので、ひとまずこれを取上げていただこうと、この由をお伝えした。すると宮崎さんより「あさじとは植物名で樹皮は縋の、幹は牛の鼻輪等…とまで読み進み、すぐ思い出したのはシナノキでした。更に「また楷ノ木ともうるし科で…」とあります。シナノキ(楷ノ木はシナノキ?)は仰せの通りの木で、信濃の国とはシナノキが多かったからだそうです。海のない信濃なのにこの樹皮は船のロープ用として他国へ運び出されてゆきました。うるし科であるから樹液にはかぶれます。黒姫駅から黒姫山へのコースに天然記念物の大木があります。を6月24日消印でいただき、つづいて田中靖二氏からも「御申越いただきました木の名について、私もこの辺でいわれている呼び名の木を申し上げ、おわかりにならないはずで。す。「あさじ」これは出来上った繊維性のものをいいます。木の名は「しのの木」といいます。これはしののき科に属します。ところによっては「へらの木」ともいわれるのではないのでしょうか。これに良く似た木で中国から渡ってきた「ほたい樹」がありますが、これは違います。と6月25日付をいただいたのであった。

このようにあさじ山の山名で私は無学をさらけだしたが、思いがけない大勉強をさせていただいたものである。上斉原から美作北二号線に上ると優美な姿は人形仙、次に目をひいたのは霧ヶ峰(きりぎりす)である。地道が補装道路になって岡山県立森林公園域を通り、六ツ台、泉源道の交叉で地道へ右折し山ヒダを縫いやがて大きく下った所で右折、羽出、三朝線へ約800m入り、曲谷川左岸830m地点に駐車した。

下手の山側は伐採直後の赤茶けた荒々しい裸斜面だが、上手はうるわしい緑林がおおっていた。耕運機が一台とめてあった。ものの5分ほどで誘うような小道が左にあった。つまり、こっちの道は近いぞ、こっちの道を直登してはと招いているようだった。しかしほんの僅かで植樹帯の生えこみに行詰りどうしてくれようかと思った時、山菜とりの夫婦(耕運機の主)に会い、ここは登れるもんですかといわれ、兜をぬいで戻ったが、この道は県道だそうである。谷を二本かけていたが架橋すれば車行可の道巾である。

田代峠はのびのびとした明るさの中に弘化四年作のまばゆい石仏がお立ちになっている。香華も人影もなく何ともおいたわしいが好きな情景だ。展望は高丸山が峠からほぼ県界をたどる。篠竹の伐分け帯を登り切ると頂稜だが、そこで伐分けは終わっていて、あとちょっとの距離が意外に苦闘だった。宮崎さんは1983年5月15日ご登頂になり「山岳巡礼第37号」で、「こんな山をコレクションするのは楽しい。」と述べてお出のように、充実感がこみ上げてくる えもいわれぬええ山であった。

白雲閣6:05…登山口6:14…役行者峰7:55…三ヶ上△1,035m 8:10～8:45…登山口10:00

美作北二号線 10:22…岡山県立森林公園管理センター 10:38～10:52…羽出・三朝線 P 11:10  
…田代峠 12:29～12:33…あさじ山△ 1, 120m 13:48～14:00…田代峠 14:45～14:50 P  
15:03…中国、院ノ庄 16:45…名神・京都南 19:10

1984年8月30日

## 第1502回例会

# 雨にも負けず

## 渡辺朋子さん退職記念登山

楠 とし子

9月9日、渡辺朋子さんの退職記念登山の日、あいにくの雨降りだが予定通り岡本さんの車に原田さんと乗せていたゞいて現地へ急ぐ。

R162号から大森への道の分岐点を少し大森側へ入ったところに神社があり、その左側の林道が半国高山に通じている。私達は、その道を終点まで行きましたが誰にも逢えず、思案していたところへ場所の下見に来られた大槻さん、吉田さん、坂田さん同乗の車に出逢い、適当な場所がないまま神社のところへ戻りました。そこには、大倉さん、方山さん達が来ておられ、その後乗用車組に前後して予定の国鉄バスから本日の主賓渡辺朋子さんをまじえた6人の方が降りて来られて、最終的にはその神社が集会場所となりました。

しかし、雨は依然として激しくやむ気配もないので、この辺で良い場所をと大倉さん等2・3人の方が探しに行って下さったところ、大森東町の集落のはずれにキャンプ場があり、そこがいいという事で一同そちらへ向いました。

そこは、大森東町のバス終点から少し北上、薬師峠の分岐点の先で、林道左側に立派な建物があり、駐車場・炊事場もあって、当初半国高山の頂上でするはずの流しそうめんを、渡辺さんには悪いのですが、やむをえずここでするという事に決定。

流しそうめんの用意が出来るまで全員待つというのもどうかということで、岡田部長、大倉さん、吉田さん、岡本さんと私達3人が用意に残り、あとの方は岩屋山649m三等三角点へ登ることになりました。半国高山670mで51mばかり低いのですが、この天候では仕方のないことだと思えます。一方、準備班の方はそれからが大変で、女4人(1人は大倉さんのお嬢さん)がサラダを作るのに夢中になっている間に男性軍はその辺にあったのか、敷居の角材や丸太等でといの台を作り、水道からホースで水を引き、見事な流しそうめんの場が出来上っていたのにはびっくりしました。その上、にゆりめんやぜんざいまで、さすが手慣れたものと山男のすばらしさを再認識させられました。登山組が降りて来られてからは例よってのセレモニー、ススキや真っ赤なホオズキ等摘み草の即席花束の贈呈に続いて、渡辺さんに、紺のパンツはともかくとして真紅のベストはお似合いで喜んでいただきました。又、渡辺さんからはビッケル料として金一封を戴き、部の装備が一段と

充実しました。さて、危惧していた流しそうめんの開始、あまりにうまくいったので皆びっくりだったと思います。お箸の動くこと…その上、鷺見さんのとって来られた茗荷の薬味が一段と風味を添え、野趣満点の流しそうめんでした。野菜サラダも好評だった事を一筆つけ加えさせていただきます。

雨中止と判断された不参加の方には申しわけないのですが、「雨も又楽し。」とまではいかないまでも、こんなに盛大に楽しくできました事は、はじめの予想からは思いもよらず、これひとえに大倉さん、岡本さんをはじめリーダーの皆様方のおかげと有難く感謝いたしております。

おこがましくも担当という事になりましたが文字通り名前のみで、本当にお恥ずかしい次第ですが今回の事で例会担当の方のご苦勞が体験としてよくわかり、その点を勉強させてもらったという事でお許しいただきたいと思ひます。有難うございました。

最後に、渡辺さんの人生第二の出発を祝し、又、当日山行にご協力いただきました皆々様に厚く御礼申し上げます。

総務 方山 宗子

職員 原田加津子

管理 楠 とし子

## 雨の中の胴上げ

(渡辺朋子さん退職記念登山)

渡 辺 智 生

早朝から雨でした。それも時折り激しく降りました。それでも集合場所の国鉄バス小野郷には、三々五々当日の参加者が総勢25名も集まりました。雨のため場所の選定に担当者の方々にはたいへん苦勞をかけましたが、幸い良い場所が見つかりました。世話役の方々に食事の準備をお願い一行17名は雨の中をシモンケ谷を薬師峠へ向いました。

山仕事の車が通るのか所々舗装された急な登りを散々後々などやかに登りました。傘をさす人、カッパを着る人、各人が思い思いの装備を着用していますが、雨が降るのはあたりまえであるように誰も気にとめていない様子でした。一汗かいた頃、薬師峠に着きました。峠での小休止のときも地藏さんの向でも雨どりをするでもなく、雨の中で思い思いにごく自然に休みました。

休憩後、△649のピークにむけて細くなった山道を行きましたが、行く手をさえぎる枝を手で払いながら、しぶきをかぶりながらこれごとく自然に登りました。…

…頂上に着きました。頂上は狭い所でしたが三角点がありました。三角点を囲んで全員が輪になり、今日主賓朋子女史を迎えました。「パンザイ」三唱の後、彼女の卒業をお祝いして彼女を胴上げしました。雨の中で！ さすが飛んでる女、朋子女史の軽いこと飛ぶように宙をまいました。

山頂での祖野な取り扱ひに彼女は、怒るところか化粧はもとよりマスカラも付けまつげも落ちるほど感激してくれました。

送られる人のやさしさが、送る者の野暮を降る雨が汚れを洗い流すように受け流してもらい、さわやかな一瞬でした。それでも雨は降りました。私達は雨の中をまるで雨が降らないように、雨の降る格好をしてなごやかに楽しく昼食の待つベースへ向いました。

下山路で目ざとく「みょうが」を見つけたW氏にうながされ夢中で採りました。ベースでは世話役の方々により私達の予想をはるかに越えた送別パーティが準備されていました。そこで「みょうが」は文字どおり薬味としての効果を発揮し、朋子女史を喜ばせました。

## 流しソーメン付き

# 退職記念登山御礼

渡辺朋子

9月9日、目覚めたら雨、でもとび起きました。何たって今日は私が京交山岳部入部以来、最初で最後の主役を務める日なのです。山村さんから電話、お世話係りさんに確認の電話をして「テントを張って用意して下さってるから大丈夫」とお返事し、入念にメイクアップ、何たって今日は私が主役なんですから…。

参加予定者は40数人、でもこの雨では…とバスに乗ったら5人来て下さってました。でも現地へ着いてびっくり、朝早くからもう既に17・8人一生懸命準備して下さってるのです。何てありがたいこと！ 感謝の気持で一杯になりました。

半国高山の予定を変更して岩屋山まで雨の登山、三角点で胴上げ、フンワリ、フンワリ空中に浮いて何ていい気持、こゝで又感激！ そして宴会場へは拍手で迎えられました。その時、すてきな彼（私にはそう見えたのです。）が岳人の歌のように野の花を摘んで花束のプレゼント、嬉しかったです。それからお世話係りさんのご挨拶、部長からの暖いお言葉、続いて山のベストとパンツを戴きました。またこれからも頑張る山に登らなきゃ…。 ありがとうございます。

それから大宴会が始ります。その流しソーメンが又またご立派！ 左源太も尻に帆かけて逃げるような大設備、延々数メートルの樋からどンドン流れてまいります。そのおいしいこと！ それにサラダ、にゅうめん、ぜんさい、コーヒー、勿論冷たいお飲物も…、もうお腹一杯、夕飯省略。そして皆さんの心のこもった寄書きを頂きました。何という幸せ！ 何という感激！ 最高でした。

ずっと前から色々、そして朝早くからお世話下さいました皆様、雨の中わざわざご参加下さいました皆様、それから記念品をお贈り頂きました皆様方、本当にありがとうございます。誌上をかりまして心から厚くあつく御礼申しあげます。京交山岳部に「不可能」は無し！ 京交山岳部に栄えあれ！

N A M A S T E

〔追伸〕 なお、近藤親分から卒業登山に参加できなかったということで、おはがきを頂きました。最後に痛烈な一句を頂戴しましたのでご披露申しあげます。

雨に生まれ 雨を生きにし その君を 送る山行 降られけるかも  
私も遂に親分の勢力下に屈服いたしました。

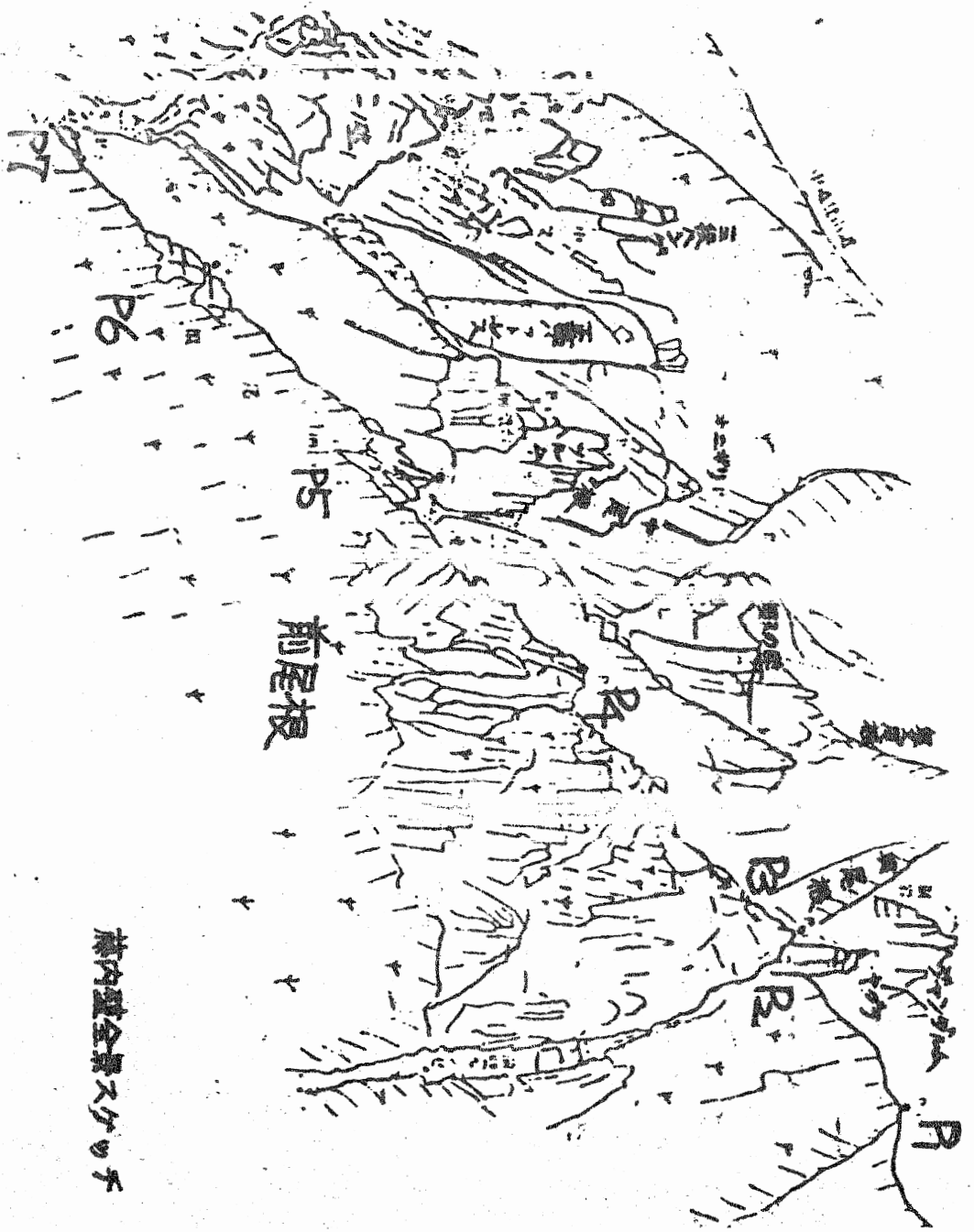
緑 峰

第1505回例会

# 御在所藤内壁RC

川原 傅 治

- 1 行程 9/15 午前6時 九条車庫集合 乗用車2台より御在所岳へ  
9/15 夜テントで暮営 藤内小屋横  
9/16 午後4時 御在所岳出発、自由解散
- 2 参加者 吉田、岡本義、広瀬光、佐伯、足立、川原  
( 岳連指導者講習会へ 岡田部長参加、 9/14~15 大倉、 9/14 台川  
両氏参加 )
- 3 食糧 9/15 夕食 焼肉少々 ビール少々  
9/16 朝食 ラーメン  
9/16 昼食 食パン、ハム、水
- 4 装備 ザイル、ヘルメット、ゼルブスト、カラビナ、エイトカン、シュリング、靴
- 5 行動内容 9/15 天候 曇時々雨後雨
- ① 御在所岳下駐車場より藤内小屋へ
  - ② 装備確認後藤内壁へ
  - ③ ザイル操作について吉田さんより指導をうける。
  - ④ 付近の15m壁で実技練習  
トップ岡本、途中支点1をとる。エイトカンによる確保  
セカンド以下、広瀬、足立、川原、佐伯、吉田の順  
登はん後、全員エイトカンにより懸垂下降
  - ⑤ 休憩後、前尾根P7登はん  
トップ吉田、セカンド川原
  - ⑥ テスト岩付近で岳連四方指導員より、ザイル操作について、午前中の確認指導をうける。
  - ⑦ 雨のため下山
- 9/15 夜 質素な夕食後、早々に消燈
- 9/16 天候 曇後晴 ( 岳連指導員講習会参加 )
- ① 7時 藤内壁へ
  - ② 各パーティに分かれて前尾根登はん(図参照)  
1班 吉田、山田(岳連)  
P7よりP3までトップ、セカンドを交互に登はん



燕内盤全景スケッチ

2班 岡本、西村(岳連)

P7よりP3までトップ、セカンドを交互に登はん

3班 中村(岳連)、佐伯、足立

P7よりP2まで、トップ中村指導員、P2で懸垂下降

4班 内藤(岳連)、広瀬、川原

P7よりP3まで、トップ内藤指導員

全班登はん時間 約5時間

登はん後 P3 P2間の前壁ルンゼより下山

6 前尾根各ピークの感想

- P7 前日吉田さんがトップで、セカンドを登る。取りつきはクラックで3mほど登ってテラスを右に行き、横にクラックのはいたリッジを登る、他のルートあり。
- P6 クラックを左にとりテラスに着く。後は右にチムニールート、左にこんもりとした岩をのりこして終り。チムニーは3~4mくらい、他のルートあり。
- P5 登はんせずに横をトラバースして通過、他の班で登はんした人があった。
- P4 正面に1つの大きな岩が尾根をさえぎっている。右へトラバースし、ルンゼ風の岩場を2ピッチで登る。上部1ピッチトップ、ピークには、ボルト3本がビレー用に取りつけてある。反対側は藤内沢へ切れて高度感あり。
- P3 P4からP3の下までは傾斜のゆるやかな岩場で、P3は尾根づたいの2ピッチ登はん。右側には6級クラスの練習用壁がある。尾根はクラックが大部分である。
- P2 P3とP2のコルに下山路の分岐点がある。
- P2は通称ヤグラ4階建てのビル、又は塔といった感じの岩。正面は人工登はんルート、右は通常の登はんルート。ここは時間的に登はんできず、3班の若手2人は、頂上より懸垂下降を十分に楽しんだとのことであった。

7 総括

日本有数の岩場の1つである藤内壁でロッククライミングができた。日頃よりコンビラの岩場で練習しているが、長い尾根を1日かかりで登はんするというのは初めてであり、楽しかった。左側に高度の技術と精神力を必要とする。中尾根やバットレス、一の壁等をながめながら尾根を登る。参加者の中には、かなりハードなクライミングを行った人もいたとのこと。今後藤内壁での練習が多くなってくるのではとの声もきかれた。今後とも確実な技術の向上をめざしてロッククライミングを楽しみたいと思った。

最後に、いつも車で吉田、岡本義両氏にはお世話になります。どうもありがとうございました。

## 坂内村シリーズ 蕎麦粒山

三橋 勉

奥美濃の念願の山、1,296.7m 2等三角点に登ることが出来た。！ 一昨年11月に頂上直下で残念ながら時間切れで引返している山なので、今回はぜひ共登りたいと思っていた山である。

9月29日午後、大槻貞従さんの車で国道303号線の横山ダムサイドを走り、広瀬から大谷川林道に入り西又谷の出合まで進むと、先客の釣屋らしい車が2台あったので少し戻りアラクラ谷の出合で幕営する。雨がパラツイてきたので早々にテントにもぐり込む。夜中に目がさめたので外に出ると曇り空らしく星が出ていなかった。時折りテントを叩く雨の音を気にしながら朝を迎えた。

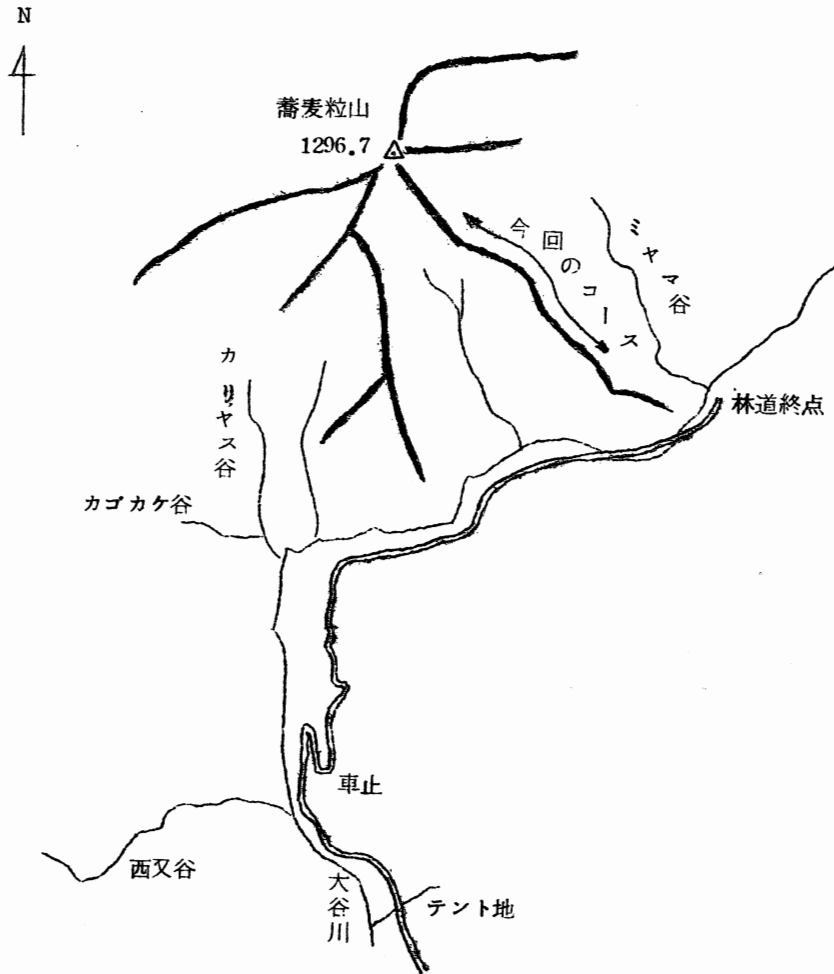
ガスが付近の山にかかっていて稜線がハッキリ見えないが、青空の部分もあるので晴れることを期待して本日の山行を決行することにする。やがて約束していた大垣の人達とも合流し西又谷出合で車を置いて出発する。

コースは前日地元の百姓仕事の爺さんから正面の大きな尾根に道があると聞いているので、そこまで行こうと林道を歩き出す。ところが林道と谷との高さにかなりの差があり、とにかくもう少し偵察しようとするうちに奥へ進むうち、谷と林道との差がなくなり林道終点のミヤマ谷出合に来てしまった。

地図でルートを見ると、この地点から尾根が北西にのびているのでここから取付く事にする。お天気は回復してきたので雨の心配はなさそうである。7時45分谷を渡り急な斜面を50m程枝をつかんで登ると支尾根に出た。このヤセ尾根が奥美濃らしいA級のヤブで手足を使って登る事になる。石楠花の多い尾根で咲いている頃に来れば美事であろうと思うが、今はジャマになってそれどころではない。手足は傷だらけで悪戦苦闘の連続である。ひと息入れて大垣の服部さんからグレープフルーツをいただく。乾いたのどに水気の多い果実は最高にオイシイ。途中岩場が出てくると横に巻いて登りコルに登ると向い側にどう尾根が続いているかと心配したりして時間がかかる割にはなかなか進んでいない。大垣の石原さんが「足を引っぱって皆さんにご迷惑をかけるので待っています」と云われるところを「もう少し、もう少し」と元気づけて登るが、同行の小西さんも「私もつき合います」という事になり、だんだん離れてしまった。伊藤さんがこの状態で登ると時間切れで登れなくなるのでリックをデポして行こうという事になる。1140m地点で12時50分であった。私は前回にも別ルートから登り、引返しているのでもう一度まで来たからにはどうしても登りたいという意欲が強いので同調してカラ身で登ることにする。

大垣の服部さんを先頭に元気な伊藤さんが先に登ってしまわれた後、どのルートに登ってよいのかわからないようなコースをガムシャラに登っていく。後に上島さんが一緒であるが大槻さんが少し遅れているようである。それもそのはず私はカラ身で登っているのにお2人さんは何とリックを





かついだままなのである。「頂上に着いた」という伊藤さんの声に励まされてやっとこさ山頂に立つ。13時45分であった。

先着のお2人さんの他に岐阜からきたという若い2人組が「もう1時間前から山頂にいます」という事なので「どこから登ったのですか？」と聞くと、一つ向いの尾根に道があって所々にテープが付いていて(9時すぎに出発)し登ってきたという事なのである。帰りはそのルートを下山したかったが、リックを途中で置いてカラ身で登ってきたので同じルートを下山しなければならないのが残念であった。

展望は抜群によく360°見わたせ、あれが能郷白山、これが伊吹山から貝月、そして金養岳とか近くでは五蛇池に続く昨年10月に登った黒津とアラクラの尾根のうしろに天狗山が見え、そのはず向いに花房や小津権現の山が見える。北の方は国境稜線の山で金草、冠、若丸、そのうしろに姥

ヶ岳というように上島さんの20万分の1の地図で確認、忙しい事である。

上島さんのビールを廻しのみし、チーズをいただき大槻さんのナシやキュウリをありがたく頂戴する。下山にも時間がかかるので長居はしてられない。もう少しゆっくりしていたかったが、14時15分下山することになり、今度はルートを外さないよう慎重に目印の枝をみながら降りていった。荷物デポ地点に到着して持ってきたビールでカンパいのやり直しをして早々に引き上げる。

待っていただいた石原、小西両氏と合流し、元きた尾根を忠実に辿りもう少しという所でとうとう日が暮れてきた。最後の急斜面のカケ上りの所を落石に注意しながら木の枝にぶらさがって降りてやっとこさ林道に出た。林道から懐中電灯を出して歩く。昨夜と違って星がキラキラ輝き三日月が向い側の尾根に出ていると空気が澄んでいるせいか、山の稜線がわかるくらいに明るいのは驚いた。まるで月夜のようにであった。

〔参加者〕 伊藤潤治、上島和彦、大槻貞従、三橋 勉

大垣山葵会(石原順次、小西利雄、服部千章)

〔コースタイム〕 西又谷出合車止 6:30…林道終点尾根取付 7:30～7:45…岩900m地点  
9:55…昼食 11:40～12:20…荷物デポ 12:50…頂上 13:50～14:15…林道終点  
17:15～17:35…車止 18:15

## 蕎麦粒山

### (大いなる藪こぎルートへ)

大槻貞従

29日(土) 13:30 曇、4人は壬生庁舎を出発、途中大垣で食糧を調達し16:30坂内村広瀬に到着。山深いひなびた村落だが、道路は奥まで舗装されており、高度経済成長をまざまざ見るようだ。伊藤、三橋と二人にとって、この山は念願の山らしく、村の中でジイさんをつかまえて、明日の取付点を聞き出すのだが、70才ぐらいのジイさんの話しは要領を得なく、もう一つははっきりしないが、行けば判るだろうと、丁寧に礼を述べ、大谷川沿いの林道を奥へ進んだ。道路脇の適当な空地にテントを張った。と二人にはおなじみのテント場らしく、我家へ帰ったようになつかしんでおられた。秋の日はつるべ落しに早く、静かな山峡には早や虫達がスズカかな音色をかなで出した。我々も負けずにカチャカチャと夕食にとりかゝった。伊藤さんの持病薬を廻し呑みに頂いて、いい気分になってきた。源氏物語の昔、狩り場で酒盛りする野趣あふれる秋の夜とは、こんなであるかと思われる。

30日(日) 5時起床、晴、昨夜霧雨よ晴れてくれと念じていた思いがとどいたか、空が白んでくるにつれて青空が見え出した。やれりれしい。大垣のメンバーが到着するまでに朝食を済ませよう。6時きっかりメンバー3名が合流。旧交を暖め、打合せした後、

いけるところまで車で大谷川を麓のほり西又の出合で車止。

さて問題は、どこから取付くかだが、昨日のジイさんの話を思い出しながら大谷川の対岸を物色したが、はっきり判らないまま林道終点まで来てしまった。途中、カリヤス谷を越えた辺りで、石原伊藤両氏がそれらしい取付道を見つけられ、先頭止れの号令をかけられたが、先頭集団がどんどん先へ行ってしまったことによるものだ。なんとかなるやろと林道終点まで行きミヤマ谷手前のヤセ尾根に取付く。初めから、踏跡はなくかなり急勾配を木の枝、根っこにつかまりかき分け登った。とにかく尾根をはずさないよう、行けども行けども切り分けらしい跡は見当らず、益々藪は密になってくる。岩を巻いたり、なたで目印を付けながら進んだ。よく見ると古い枝折りやなた目が所々見受けられるところを見ると前人未踏のコースではないらしい。その内に藪がとだえ、仙道か、切り開きに出くわすのを期待しながら、とにかく上へ上へと尾根をはずさないことだけを頼りに登った。だが期待とは逆に益々藪は密林になり、中でもシャクナゲのお化けが、蛸が足を開けたように我々に向ってくる。ご存知、美濃の藪は雪深いため樹木は凡て這松のように地面に這って下に向けて枝を伸ばしている。だから北山の藪こぎと趣きが違い、逆毛の中へ突込んでいくごとし。いくらかき分けても逆枝が足にからまり引き戻されてしまう。一步前進二歩後退とはこのことだ。黙々と4時間経った頃、ちょっと明るいコブに出た。大休止して行動食とオレンジにかぶりついた。今まで見えかくれしていた蕎麦粒山の頂上がはっきり見え出した。それにしてもなかなか近づかない。かなり歩いたつもりでもまだ標高940m地点にしか到達していない。普通4時間歩けば1300mの山なんか頂上に着いている頃である。伊藤氏の「13時半には頂上へ着かん」と明るい内に林道まで帰れないで」というハッパの声に皆元気を取り戻し、苦勞してここまで来て頂上を踏まず帰られようかとザックを放り出して、狂ったようにぶら下り登攀、懸垂登攀、腕力登攀の開始である。枝先をつかんで下へ折り曲げ、足で踏んづけて幹元近くへよじ登る。そこから次の枝先へ手を伸ばす土を踏まずに枝から枝へと渡り歩く。まさに腕力登攀である。こんな山登りは初めてである。しかし面白い。1200m地点ごろには、小生まったく疲れ果て、惰性でゼーゼー、アーアーうなりながらでなければ歩けない。枝によりかかって一本立てる。大概さんは藪こぎ向きの体だとおだてられ調子に乗って先頭を歩いたのが、ここへ来てこたえて来た。ヤッホー、もう一息で頂上やでーという三橋氏の声が間近に聞えた。やれやれヤット頂上にたどり着いた。まさに、たどり着いたという感じである。13時50分着。へたり込んで梨とチーズとクラッカーを減った腹に流し込んだ。

360°の展望だが、ゆっくりながめている間もなく下山開始。同じ藪の密林を引き返すのかと思うとゾッとしたが、何も考えずとにかく下った。下りの藪はちょっとはましたが、すべてよく転ぶ日頃使わない筋肉の疲れというか、立っているのがだるいという感じだが、なた目と枝折りを忠実に探して下った。声をかけ合いながらなた目を確認し合い、決してバラバラの行動はとらず、チームワークよく下った。それでももうっかりすると尾根を外れて谷筋の方へ下ってしまう。この谷は急峻で危険だ。しかし時間が経つのは早く、夕闇が迫ってきたが、まだ取付点に戻れない。足元は暗く、枝折りが確認出来なくなった。一時は野宿せんならんかと考え出した頃、川のせせらぎが聞え出し、なんとか取付点に帰ってこれた。バンザイ、河原で水を汲み空を見上げると月が出、星が満

天にキラキラ輝やいていた。もう真暗である。皆無事に下山したか呼び交し人数を点呼した。やっと緊張がほぐれ喜び合った。このあと車止までの1時間は口笛吹きながらルンランランという感じで大地を踏みしめながら歩いた。車に到着して飲んだ梅酒がうまかった。3日後ぐらいから、体に不思議な力がみなぎり充実した山行だったなあとにつかしく思い出される。次回は登りを炭焼道にとり、下りにあの悩まされたシャクナゲの花を愛でられる季節にというのは如何でしょうか。

## 東北地方の一等三角点の山旅

# 白神岳～早池峰山 8/3～12

坂井久光

今春小生の入会している深田クラブから8月4日に東北の秘峰白神岳へ行く計画を知らされ、丁度会社の夏休みに当るので参加する事にした。8月3日の夜行日本海の指定席が一週間前に売切れたので3日を休暇で休み、特急白鳥で東能代に行き駅前旅館で一泊、風呂に入り就寝していると仙台から深田クラブ会長の小林さんが尋ねて来た。彼も私の主宰する一等三角点研究会に最近入会したが、初顔合せであった。挨拶そこそこに明日早朝の出発に備えて就寝。

翌4日弘前行五能線のディーゼルカーに乗ると会員が4・5人乗った。津軽の海岸美を賞で乍ら黒崎で下車。先着者と合し6人で出発。南へ線路を通り車道の踏切を東へ渡り国道を横切ると正面に白神岳登山口の立看板があり登山コースが書かれていた。併し大体登山コースは「日本の名山」東北編に載っており先刻承知であった。林道を登ってどんどん進むと2になり間もなく駐車場のある登山口に着いた。こゝから樹林の山道となるが、林道は工事中で白神沢派いに延長するらしい。

ガレ場を通り、左に山道を分岐して山腹を<sup>テ</sup>追むと鯉山分岐である。マテとはどんな虫か興味的となったが帰って漢和辞典で調べると馬手具であった。この間に青ゲラ(木啄)や左手10m程先の山手にカモンカの子供が現れカメラをかまえるとすぐかくれてしまった。途中小沢が2・3あり冷たい水が甘く、登り下りの末、白神沢の上流へ下り沢を進むと二又で田沢が本流でこゝから中央尾根筋に登路が上っている。一同こゝでゆっくり休んだ。左の小沢も可成り水量があり小滝に岩魚が見えた。林相はブナを主にヒバが多く下草に舞鶴草や燕オモトが所々に見られた。

急な尾根道を汗を流し乍ら登ると高度を稼ぎ前方に稜線が望める所に出た。根曲竹が現われ樹高が段々低くなり、笹と灌木の急坂を登りつめると草原状の山頂一等三角点に着いた。小倉さん等とおくれている会長を待ったが仲々現われず小松さんが迎えに下った。その間水場へ水を汲みに行ったが、60mと書いてあったが可成り下った谷の左岸に笹の葉束から氷の様な岩間洩るしずくが滴下していた。コップ一杯に約一分程かゝり水筒二個を充たすのに5・6分はかゝった。その間附近は夏でも寒い場所で、私はこぶら返りになり声をあげたが頂上の者に伝えない様子で笛を出して吹いたら、2人程熊にでも襲われたのかと思って下りて来て水筒を渡し、暫く脚をもんで少しはい上ったら段々楽になり山頂へ戻った。小林さんも体調が悪かって遅れたが登ってコーヒーを沸してい

た。ガスがこめて展望がきかず、やがて出発すると向日神岳の連峰が見えて来たが遠くは霞んで見えない。帰路を鯉山への尾根筋にとり一面に釣鐘人參の紫が咲き草原状で雌タカラコが見られた。

丘樺と根曲竹の切開をどんどん下り幾つも低いピークを越え樹林帯に入り鯉山の手前を左へ曲って急下し山腹をまいて下り鯉山分岐に下り一休して蛇に悩まされ林道の登山に出て長い林道を歩いて駅前の店で氷菓を食べて十二湖の白神荘に電話して迎えの車を頼んだ。一休みしていると二台の車が来て一路十二湖へ。民宿で風呂に入り海の幸を着に祝宴となりビールで乾杯。一同満腹にて就寝。翌5日、駅で皆と別れ弘前へ汽車で向った。同席の山男と話したが、東京の沢登り溪魚釣が好きで赤城沢や追良瀬川を越行してこの辺の溪にくわしい。一人の野営も大変と思う。途中で下車して分れた。弘前に行きバスセンターで岩木山行バスを待ち、バスで終点に行きリフトに乗継いで鳥海山や岩木山△へ登って往路下山。バスで岩木神社前で下車、国民宿舎岩木荘で一泊。温泉で汗を流し明日に備えた。

翌6日、バスで弘前に出て駅前から十和田湖行バスに乗り小国口で下車。失捨山へ向った。バスの便悪く小国へ向って歩いていると農協の車が来て失捨山を尋ねて途中迄ヒッチ。峠迄車道は6Km程あり途中でトラックをヒッチ峠迄送ってもらい大部時間が短縮出来た。東へ向って稜線の林道を登り、ピークの手前で山道となり笹を分けて登ると4等△があった。南に尾根道が続く。大部茂っていて所々藪漕ぎをして車百合の咲く松林の山頂へ。併し附近を探しても標石なし。樺の駒材の様な木と50cm角の穴が掘られてあった。

暫く休んで防火線を西へ向って下った。下部は藪で谷を渡り植林地のカヤ原を繞って草道へ登り峠に出て又車をヒッチして平賀町へ下った。こゝで電車で弘前に出て奥羽本線で小林と約束した早口へ向った。18時頃早口に着き第一予約の旅館を尋ねたら予約は受けてないとおかみの返事、仕方なく第二の斎藤旅館を尋ねたが、此所の鮎釣客で満員だが事情を訴えて前の親戚の自転車屋の2階の子供部屋を空けてくれて泊った。小林は23時前に着き、訳を話して就寝。彼は秋田へ竿頭祭に見に妻子と行き別れて来たとか、子供はねぶた祭を青森で見たとか、私には縁がなかった。

翌7日早朝タクシーを呼んで田代岳3合目登山口へ、美しい溪流が流れ橋がかかっていた。12時半頃迎えに来るよう頼んで出発。川沿いの緩い登りをロボットに出て急坂を登って油谷状の登山路を7合目・8合目と登って山頂直下の田代へ、一面の湿原に沢ギボシの紫花が一面に咲いているばかり、池には三柏が一杯浮んでいた。小丘を登ると山頂でお社があり一等三角点があった。一面が平坦でキャンプが出来そう、一休みして烏帽子岳経由下山した。展望はこゝもガスって見えなかった。下山路は荒れていて熊の糞があったりして悪路が続いていた。又烏帽子岳迄登り下りがひどく時間をくった。又最後の急坂なジグザグで草が茂っていて大変だった。

約束の時間より少し遅れて車を待たせた。斎藤旅館に戻り冷したそうめん(京より持参)を作ってもらって食べビールを飲んで早口から大館へ出て別れ、一人で高森へ。16時頃だった。1時間位で登れると思ったが、タクシーの運ちゃんは何故か地図を見せても登山口を知らない。仲間に聞いても知らず、森林組合へ行ったが知らず、山館沢の鉾山の林道が深く入っているから最短だろうとのことで、花崗鉾山の支所へ行きくわしい5,000分の1図を見せて調べてもらい林道終点から

尾根筋を一登りすればよい事が判った。車を奥へ飛ばしたか、やがて沢か道か判らぬ所を走って離合点に来て奥が少し道が悪いのを見てこゝで下りてくれとのこと、仕方なく下りて歩いたが、又よい道となり2kmで終点の沢が二つ穴のコンクリートから出ている所から尾根に取付いたが、踏跡程度ですぐ消え藪を漕いで登ったが又道に出て尾根を2状に登った。頂上に18時頃着いたが測量板が漕の跡にあったが、標石はいくら附近を探しても見つからなかった。遅くなったので鞍部から谷へ直下して沢を下り林道の出合へ。19時半頃谷沿いの林道の向側から突然ドドッと物凄い勢でけものが走り下りてくる様子、びっくりして大声を出すとうりもびっくりして急に谷沿いに向をかえて走り去った。ものの一分間程の出来事で木の間越し見たのは大きなカモシカであった。

鉱山へ行き皆帰って誰もおらず困っていると一人車で帰って来て電話で車を呼んでもらい、駅に行き荷物を受取り大滝温泉へ行って一泊した。

翌8日十和田湖バスに乗り、和井内で下車、大川岱行バスに乗換へ大川岱で下車。カルデラ荘の看板のある沢沿いの車道を西へ向って登って行くと荘前を過ぎて間もなく右に鉱山への林道が分れる。それから暫くして左に林道が分れるが、現在河川工事中の為トラックや工事車が多く、こゝに白地山への標識が立っていたりを見逃した為、真直ぐ進んで車道が切れ沢添いの小道を進んだが途中で消えてケモノ道に迷い込んだ。地図を出して見て右へ大きく廻り込んでいるが、又川沿いになるので沢をつめて迂行して左に滝を見て暫く川を廻り左岸に移ってカモシカの足跡の多い湿地を何度も通って右よりに進むとよい山道と出合った。それから間もなく川を渡る所に出て大川岱3kmの標識があった。(白地山へ3.6km) 一帯はブナ、ミズナラを主とした原生林で、トチ、ホウ、カエデが多く下草は根曲竹で所に細流が流れ小池があった。一休みして細い沢沿いに登るが、峠迄が可成り長かった。

漸く峠に着き一休みして500m程行くと展望所に白地山との分岐で標識があった。此所から白地山へは高度差が少く平坦な笹の切開きを通り抜けると湿原に出て水ギボシの紫花が沢山咲いており4・5人の人が昆虫採集しているのに会った。山頂が少し高めになっているのが見えゆるいスロープで一条の道がついている。太陽はきつく汗をかくが速くの山は覆んでいてよく見えない。

湿原と笹のトンネルを登りつめると白地山頂で一等三角点が中央にあった。やれやれと標石をなでて一枚写し冷いお茶を魔法瓶から出して飲み一休みして下山。大川岱へ下り、バスを待つ間食堂でざるそばやアイスコーヒーを飲んで十和田へ向った。十和田で国鉄バス青森行に乗り換えたが、待つ間に十和田湖の風景を見物し土産物を買ったりした。バスは奥入瀬川の溪谷を下りテーブルで説明し、大小幾多の滝や瀬岩を觀賞した。酸ヶ湯温泉で下車、こゝで一泊した。

翌9日八甲田大岳へ仙人岱を通して登り、往路下山。雪渓の雪氷を欠いて頭にのせるとジンと頭の芯がしびれるような冷さで暑さを忘れ、汗がひく。それで高森の藪コギで帽子をなくしたのでタオルで氷を包んで頭にのせて歩いた。河童式消暑法とも云うべきか、酸ヶ湯へ戻りバスで青森に出て駅前のそば屋で冷しそりめんを食べて帽子を買って汽車で盛岡へ。案内所でバスセンター近くの民宿を世話してもらい一泊。

翌10日岩手山行初発バスに乗り小岩井農場を通して国民休暇村、網張温泉へ。此所が登山口で

立派なホテルが建っておりロッジもありケブル(リフト)がついており犬倉山へ三つのリフトを乗継いで登った。終点から段状の登り約20分で山頂へ。谷へ下り水場から谷を登って姥倉山と黒倉山の鞍部に出て黒倉山の山腹を通して岩手火山の外輪山の鬼ヶ城の岩峰の難路を上ったり下ったりして通り不動平の山小屋へ急下して火山礫の急坂を登って山頂へ。途中高校生が団体で来ていたが先生の命を守らず先登した生徒がビンタをくっていた。所々に岩桔梗や回葉塩ガマ等高山植物も生えていたが山頂はガスで展望は駄目だった。往路を飛ばして水場へ下って岩間から噴出する真清水は白神岳の次に冷く甘かった。

犬倉山を経てリフトに乗り継いで網張温泉へ。バスで盛岡に帰り翌日の早池峰山へ向うバスの出発点花巻へ、駅前旅館で一泊。翌11日6:30 発河原坊行バスに乗車。始めはすいていたが、段々ふえて終点には満員で到着。立派な休憩場が建っており標識や登山図等が立っている。沢沿いの登路を辿りカンカン照りの尾根筋に代り、急なジグザグで高度を稼ぐ。薄雪草、トウチ草等が道端に生えている。急峻な山腹のジグザグにうんざりして汗をふき休みをとって登り続けるとやっと稜線に出ると頂上はすぐだった。巨岩が沢山あり信仰の碑や小祠が多く御岳や甲斐駒に似た山頂風景であった。山頂の各所に沢山の登山者が休んでいて天候は快晴だが遠くは霞んで展望は駄目で、近くの山々が霞んで見えた。避難小屋もあり、下山は小田越へとり少憩後下山。途中御田植場とか竜の馬場とか信仰の山らしい所を通り可成り急な山腹の岩と礫のガラガラ道を下り樹林の中を通して小田越の車道へ、途中小沢の水を呑んだり顔を洗ったりして河原坊へ。新設の休憩所で休み車で来た人に途中の大迫迄乗せて頂いた。

大迫は車庫のある交通の要地で立派な喫茶店や土産品店もありバスを待つ間休憩した。もっと日程に余裕があればと思える名峰だったが長い東北の山旅も今日で終るのかと思うと感慨無量で十分な土産も買えず、ねぶた祭や竿頭祭にも縁なくひたすら家路を急ぐ次第となった。バスと列車で北上へ行き、新幹線で東京に行きバスで帰京の予定が指定席が売切れ、やむなく「銀河」で12日朝帰京した。

#### [コースタイム]

- 8/3 10:32 京都→ 22:05 東能代(東旅館泊)
- 8/4 7:19 東能代→ 8:35 陸奥黒崎→ 9:35 ~ 9:40 林道・登山道分岐… 10:15 ~ 10:25 鯉山分岐… 10:50 ~ 10:15 コケノ沢… 11:20 ~ 11:30 二又… 13:40 ~ 15:00 白神岳 … 17:20 ~ 17:30 鯉山分岐… 17:48 林道分岐… 18:20 ~ 18:40 黒崎… 19:00 白神荘(泊)
- 8/5 8:42 十二湖… 12:05 ~ 13:30 弘前バスセンター… 14:50 岩木山終点… 15:20 ~ 15:35 岩木山△… 16:35 終点バス停… 17:15 岩木神社… 17:40 岩木荘
- 8/6 7:50 出発→ 8:45 ~ 8:52 弘前駅→ 10:00 ~ 10:05 小国口… 10:25 峠… 10:30 ~ 10:35 4等△… 11:10 ~ 11:20 矢捨山△… 11:50 峠… 12:00 ヒッチ… 12:40 ~ 14:05 平賀町… 14:23 ~ 16:40 弘前駅→ 18:12 早口→ 18:30 斉藤旅館(泊)
- 8/7 7:05 出発… 7:35 田代岳登山口(三合目)… 8:23 ~ 8:28 ロボット… 9:56 ~

- 10:05 …田代岳△ 11:00～11:10…烏帽子岳 12:55 登山口(三合目)… 13:25～  
 14:50 早口… 15:20～15:30 大館… 16:25 林道下車… 17:55～18:00 高森△… 19:55  
 ～20:05 花崗鉾山支所… 20:30～20:40 大館… 21:00 大滝温泉第一ホテル(泊)
- 8/8 8:30～8:34 出発… 9:45 和井内… 10:00～10:15 大川岱 … 11:33 道と出会う…  
 11:38 白地山 3.6Km… 渡河点 12:15～12:20 峠… 12:28 白地山分岐… 12:50～12:55  
 白地山△… 13:15 白地山分岐… 13:20～13:25 峠(4.5Km)… 14:00 大川岱(3Km)  
 14:30 白地山林道分岐… 14:45～15:25 大川岱… 15:45～16:50 十和田… 18:40  
 酸ヶ湯温泉(泊)
- 8/9 8:10 出発… 9:15 大岳・小岳分岐(仙人岱)… 9:45～10:00 八甲田山△… 11:35～  
 12:21 酸ヶ湯温泉… 13:20～14:40 青森… 17:15～17:25 盛岡… 18:00 バスセンター  
 (民宿)泊
- 8/10 7:00～7:20 バスセンター… 8:28～8:30 網張温泉 … 9:00～9:15 大倉山… 10:00  
 10:05 姥ヶ山分岐… 10:55～11:00 3.4Km… 12:35～12:55 岩手山△… 13:15 稜線  
 … 14:05 3.4Km… 14:45～14:50 姥ヶ岳分岐… 15:45～15:47 リフト… 16:20～  
 17:10 網張温泉・18:15～19:28 盛岡ー 19:58 花巻駅前旅館(泊)
- 8/11 6:30 出発… 7:55 川原坊… 8:45～8:50 尾根道に入る… 10:05～10:30 早池峰山△  
 … 11:15～11:30 休… 12:15～12:20 小田越… 13:00～13:30 川原坊… 13:50～  
 15:00 大迫… 15:25～15:50 右鳥谷… 16:01～16:30 花巻… 16:42～16:52 北山ー  
 19:47～20:01 大宮ー 20:27～21:07 上野ー 21:15～22:00 東京
- 8/12 7:05 京都駅

## 不行岳 北東壁

萌 椰 子

S 59年8月27日

北鎌への例会へ参加したいが休みが取れず気分がイライラの27日の公休日、広沢さんより自分の休みが一日とれたので雪彦山でも行きましようとの連絡があり話が急に決まる。私宅3時発で広沢さんを迎えに行き毎度同じコースの中国高速道を走る、福崎インターから坂根の村へ車を駐め朝食をすませて夢前川を廻り不行沢へ入って三峰經由で不行岳へと向う。

三峰の壁は三度目でますますの調子で2Pをこなして松ノ木テラスへ、しかしこの先の小ハンダにまたもヤスズメ蜂が巣作中、巣の手前5m程で左方へトラバースできるのでと広沢さんは出発。(本日も私はオールセカンドで登ります。)しかしこの地の蜂は非常に攻撃的でトラバース寸前にアッ!! ヤラレタ!! との声…瞬時に4ヶ所も刺されたそうですが我慢強く蜂の集団が立ち去るまで静かに動かず蜂が巣へ戻ったのを見届けてからゆっくりとクライムダウンでテラスへ戻り腫れ



あがった針跡を強くつまんで毒を絞り出して下さいと…蜂の針より台川さんの爪の方が痛いと言われと冗談を言ってあまり影響がない様子です。まずはひと安心。

今年はホームグラウンドの金毘羅山にもスズメ蜂が3ヶ所も巣を作っており刺された人の話もたまに聞きます。…中には仕事も出来ぬ程苦しめられた人も居られるそうで要注意です。小休止のち別のトラバースルートで三峰の頂点へ、今日は暑さが厳しいので汗がなかなか止まりません。1ℓの水筒では最後までもつかなと不安になる。

コルより右方のバンドを降りて不行岳正面ルート4級A1、240mに取り付きますが此の地点で不行沢より2P程登ったこととなります。クラックに取付いてA0で登るのですが、人気ルートと案内されているわりに登った人は無いようでビンの打ち直しが必要でした。直上して立木でピレー点となりますが、2P目はダイレクトに行くコースはピレー点の不確定だとのことで右へ振ってガリーの方へ進むが、フリーの箇所が多くなり辛い登攀でした。

3P目はガリーへ入らず左のリッジを登りましたが、ここも夢中で進みフィフィが一個紛失、も少しですからガンバッテ下さいと言われ少し傾斜の緩くなった壁を登って不行岳のピークに到着でバンザイですが、ここで水筒の水は空となる。

小さなコルをまたいで大天井岳への短い壁は情けない程体の動きがスローになり、残置してもらったリングをつかんでヨイショと弾みをつけて…壁は終りゆっくりと歩いて頂上へ、まずは無事を感謝して役の行者の祠に合掌、道具を体から外して木陰へ入り大休止、なぜか？広沢さんの水筒には水が半分よりも残っていてお言葉にあまえて全部頂く!!

しかし今日は非常に暑い、風も少ないと一人でボヤキつゝ一般路を下山。大汗をかいた後の水遊びは最高で冷たい谷川の水を浸して悦に入る。重くなった鞆をあげて衣替えをして出発。村の酒屋に立寄ってジュースを求めて喉を潤しつつ車を走らす。中国高速道六甲附近は夕立が激しくて5.0Kmのスピード制限、京都に近づく天王山トンネルから停滞となりましたが、事故もなく無事に帰宅しました。

〔コースタイム〕

五条壬生川 3:05 - 坂根駐車場 5:15 ~ 5:55 ... 三峰取付 6:50 ... 三峰終了 9:40 ~ 10:10  
不行岳取付 10:20 ... 不行岳終了 13:10 ... 大天井岳 13:50 ~ 14:30 ... 坂根駐車場 15:10 ~  
15:40 - 京都私宅

## 谷 川 岳

萌 椰 子

9月5日～6日

国地院20万、高田5万、越後湯沢と4万を参照下さい。S社のエリアマップやH社の登山大系

の3番、Y社の写真案内解説書等いろいろと谷川岳を知る方法がありますが、やはり百聞は一見に如かずでした。6月の幕岩行で登攀中に何度か腕にケイレンを起し広沢さんにご迷惑をかけてましたが、体調の悪い所以であろうと思ってました…が、また今度の山行のトレーニングの意味での雪彦山では別に異常は起きませんでした。しかし今回またもや終りに近くケイレンを腕に起して不安な気持ちに陥りました。

この衝立岩正面雲稜ルートは私の技術の未熟もさることながら精神的に圧迫が強く登攀終了後テントに帰り着いてから広沢さんに向い非常に申し訳ないのですが…どうにも怖くなって…残りの登攀を中止にして下さいと頼む!! ニッコリと笑顔でワカリマシタ!! 中止にしようと言ってくれたので、ホッと一息。

しかし大切な休暇を使って出てきてるので心苦しい限りです。気持ちを鎮める為に(そんな大層な)禁を破ってタバコを一本… ウイスキーも口に苦く感じられた。今迄にリードしてもらったビックなルートへの登山届は、広沢さん所属の京都岳人クラブの名で出して頂きほんとにお世話になりましたが…もういけません。

全部私のスローペースにあわせてリードしてもらってましたが、体力の壁に突き当たっては迷惑をかけるだけで、これ以上の甘えの気持はキンモツです。皆様にもいろいろとご心配をかけましたが今後は体力限度内での壁を楽しみたいと考えてます… 泣言のついでに最近この雲稜第一ルートをフリーで登攀したニュースを山の雑誌で知りましたが…なんとも私の思案の外の出来事のようにです。

最後に念の為に申し上げておきます… 登攀を始めてからいろいろのコースを報告させて頂きましたが… これは全部広沢さんという強力にリードしてくれたリーダーがあったから出来たことで毎度言ってますが私個人の方ではどうにもなりません!! 一般登山路と違い壁の場合はトップでリード出来ることと、セカンドで引っぱってもらって登ることの差を誤解のないようご理解下さることを願って萌椰子としての報告を終了いたします。

#### 〔コースタイム〕

- 9/4 16:15 名神京都東インター - 20:55 富山朝日インター - 22:30 北陸自動車道  
上越インター
- 9/5 0:15 六日町インター - 3:04 谷川岳登山センター前着(仮眠す) - 7:45 一ノ倉  
駐車場出発… 9:05 西黒尾根 カレ沢の頭… 10:00 谷川岳肩ノ小屋、小休止昼食の後  
30分発で… 10:40 谷川岳頂上… 11:35 一ノ倉岳頂上、芝倉沢経由… 14:50 一ノ  
倉沢駐車場着
- 9/6 4:20 起床… 5:30 テント地発… 7:00 雲稜ルート取付… 15:35 終了… 18:00 テント  
地帰着

# 尾瀬ヶ原より燧ヶ岳

台川 敦美

9月7日

登山中に死の至って近く危きこと脚下にありと心身共に痺れてしまった私を元気づける為に残りの休暇を使って広沢さんは此のコースを考えてくれました。此所は既に皆さんよく御存知でしょうが毎度のことながら独断と偏見で報告します。

朝早く一の倉を出発、登山センターで下山届を出し谷川岳より離れました。道略地図を頼りに進行、尾瀬の入口である鳩待峠へ到着（入口は他に3ヶ所程あります）ここには山小屋と案内所や駐車場が二ヶ所設けられています（一ヶ所で50台は駐車出来ます。）

朝食後、美しく整備された厚板の遊歩道をくだって山の鼻の小屋へ、ここから見晴迄が湿原で二筋の板の道が長く続きます。あたり一面の草の原となっておりますが蘊蓄を傾けるにも名前を知らないのて恥をかかぬ先に沈黙の一手、途中に何ヶ所かの休憩所が作ってありますし、非常にのんびり出来ました。見晴の十字路の小屋が建ち並ぶ所で一本立てるも途中で出合い人も少なく天気もよく言うことなし、この先は尾瀬沼へ向う道の途中より山手へ入り燧ヶ岳へと進みますが、二人で一個のザックを交替で持参したのですが登り坂になると広沢さんの背に乗ってばかりで、楽をさせて頂きました。ピークが二つあり、柴安岳と粗岩（まないたぐら）と誓われてました。尾瀬ヶ原と尾瀬沼と両方を眺めて楽しめます。

下山は尾瀬沼をめざして一直線の道を沼尻の小屋へ、一本立てて小屋番のおじさんに道の様子を聞きますと、此の道はツー（通）の通るコースで熊に出合えば幸せですよと教えてもらったが、沼で鴨を見ただけで山道になっても熊に出合わず皿伏山で一本立てる。山中にも湿原があり水芭蕉の大きな葉が多く残ってましたし、尾瀬ヶ原とひと味違ったコースと感じられると話に花が咲きました。此のコースの最高点の白尾山を通過、マイクロ電波塔の建つ所より林道となり、富士見峠の小屋へ。中へ入って小休止の後鳩待峠へ尾根筋を進みましたがガスが出て遠望は駄目でした。しかしここにも厚板の遊歩道が敷かれて楽に歩けますし、アヤマ平から中ノ原、横田代と湿原が続きます。時期がよければ眺めてばかりで歩けずに時間が足らなくなると思えました。日が暮れかかりヘッドランプを出さねばと考えつつ歩くうちに峠の小屋明りを見つけて駐車場にたどり着きました。ゆるやかな道を一日中歩いてのんびりさせて頂き、壁のショックが少しは薄らいだようです。次回は家族連れで行ってみようと考えつつ… ベンを置きます。 以上

〔コースタイム〕

一の倉沢 4:20 出発…鳩待峠 6:50 ~ 7:50 …山の鼻小屋 8:35 …見晴十字路 10:05 …柴安岳 12:15 …粗岩△2等 12:30 ~ 12:40 …沼尻小屋 13:40 ~ 13:50 …皿伏山 15:00 ~ 15:05  
白尾山 16:00 …富士見峠小屋 16:35 ~ 16:55 …鳩待峠 18:20

# 初秋の北山・雲取山を歩く

山元誠一

家を出る時は前夜の雨が尾を引き曇模様であったのに、山に近づくにつれて晴れ間が広がって、それこそ「ルンルン気分」ノ〜ンピリと北山歩きを楽しむ事ができました。神風山行をなさっている方も、是非一度こういう雰囲気味わってみて下さい。いゝものデスヨ!

2年前の敬老の日には、武奈ヶ岳、そして昨年は皆子山へ。そして今年も「何処か行かへんか?」という津田老公(失礼しました。)の御言葉により、私と井上君(2人はさしずめ、助さん、格さんといった所)で、雲取山へという計画を立てた訳であります。今年は、一日遅れの16日に登ったのですが、それが幸いし天候にも恵まれ楽しい山行となりました。

曇がちな天候を気にしながら三条京阪から広河原行のバスに、途中、出町柳から私の友人(何故か女の人!!)も乗車し、本日の参加者が全員揃う。曇がちであった天候も貴船を過ぎたあたりから薄日がさし、花背に着く頃には青空が広がり、今日一日の好天を保障してくれているかの様でした。初めて花背の里を訪れたのですが、わらぶき屋根の家などもあり、忘れかけていた「田舎」をそこに似た様な気がして、とても気に入りました。

雲取山に向う人は大勢で、我々7人を含めて30名ぐらいの人でしょうか。三々五々山に向かって歩いて行かれる。我々も身づくろいをして、津田さんと「ナッチャン」を先頭に出発。スキー場沿いの道を経て、樹林帯の急な登りを過ぎると寺山峠下の開けた所で、そこでまず一服。秋風に身をさらし、花背の里をみていると俗世間を忘れてしまいそうになる。そこから寺山峠迄は、ほんの数分。休息中の人達を尻目に我々は先に進む。滑りやすい下りを、そして小川沿いの道を進むとやがてりっぱな小屋が姿を見せる。さらに進むと一ノ谷と雲取峠への道との分岐点に出て、そこから少し行った所で小休止。木洩れ日の下での何げない会話。こういう時間というのは、大切なものです。谷沿いの道を雲取峠へ。雲取峠は熊笹におゝわれた明るい峠で秋の日射しがまともに照りつけ、まぶしさを感じる程であった。小休止の後、雲取山を目指して熊笹帯の道を足元に注意しながら進むと、30分程で山頂に到着。北山の頂きがどこもそうである様に、雲取山もまた、展望の利かない所であった。時間も早く、人が一杯だったので、三ノ谷を降りようかと思った矢先、先着されていた人達が下山されたので、こゝで昼食という事になった。本日のメニューは、超豪華版の「ウドン」参加者全員、お腹がボンボンになる迄食べました。そして昼食の跡片付けをし、我々が三ノ谷へ出発しようとした時、三ノ谷へ降りていった家族連れが蜂に刺されたと言って戻ってこられた。子供が痛みをこらえてガマンしている姿が痛々しい。丁度頂上におられたもう一つのパーティの方達が氷を、井上君が水をだして冷やしてやるが、痛そうである。早く谷迄降りて冷せばというので、その方達は降りて行かれる。我々も三ノ谷はやめて(蜂が興奮して襲いかも知れないので)

もと来た道に戻り、一ノ谷から芹生に向う事にする。一時間余りで一ノ谷と寺山峠との分岐点の手前に到着。休息の後、一ノ谷へ。一ノ谷はとても明るい谷で、花もたくさん咲いていました。小川を幾度も幾度もアッチコッチと渡る度に、「ナッチャン」や女性陣の嬌声が谷に響き渡り、昼寝中の北山在中の動物には迷惑だったかも知れません。しかし、その声も私にとっては心地よく聞えたものです。二ノ谷との出会い付近で頂上で一緒だった方達と会い二ノ谷の様子を伺うと、ハシゴが使用不能でザイルを使って下降したとの事でした。続いて降りてきた高校生のグループに聞くと、三ノ谷の又の名は「蜂の谷」と言うのですという話を聞いた。これから入られる方、充分注意して下さい。我々もそのグループを追う様に芹生に向う。芹生へ向う途中から道は広くなって、釣人のものだらりか、車も入っていた。

寺小屋跡で大休止をし、その後はアスファルト舗装の道を芹生峠へ。道沿いには真直ぐ空に向けて伸びている北山杉が林立していた。それにしても、貴船迄は長〜い長い道のりでありました。(アスファルト道はもうウンザリ!) 初秋の北山…天候よし、食物もよし、花もよし。引率して下さった、津田さん、有難とう御座居ました。

【参加者】 津田、上島、松井F2、井上、林、山元

【コースタイム】 三條京阪 7:20 - 8:50 花背別所 8:55 … 9:25 寺山峠… 10:10 雲取峠 10:20 … 10:50 雲取山 12:00 (昼食) … 12:50 一ノ谷分岐… 14:00 芹生 14:20 … 15:00 芹生峠 … 16:00 貴船神社… 16:35 貴船口 16:42 一出町柳 17:10

## 8 の 参 り

畑 照 人

8月30日 晴

夏休み最終日を明日に控えた今日は、清滝への家族連れ多くマイカー駐車場も繰込む車が後を絶たない。空也滝への分岐点から梨木谷へと入るが、こゝは全く人影無し。本日の目的は月参りと薬草採取である。ドクダミはもう消えてしまったのか見当らず。代りにゲンノショウコの花盛りであり、採取した。クズも今花が咲いている。オオバコは道路一杯にある。梨木大神石碑の前の川で水洗いするが、水の冷たく美味なこと。此所から谷道の入口までにドクダミ少々採取。一人の中年男性に会う。矢張り薬草採らしい。首無地藏から神社へ向うが、採石場の現場は何としても早急に昔の姿に戻してほしいものである。参拝後集印、日付を千日詣の日にしてもらった。下りを水尾へと迷ったが、表参道をとる。 気温24°

# 金毘羅 R C

川原 傳治

今年は7月～8月にかけて3回ほど北鎌のトレーニングで金毘羅でロッククライミングを行い、北鎌縦走を無事すませることができた。その後、御在所岳藤内壁前尾根で再びロッククライミングを行いその楽しさを少々味わったしだいである。ところが、がらにもなく、また登攀技術を上げることこそ第一前提であるところなのに、クレッターシューズなる魔法の靴といわれる靴を買ってしまったのである。そして、そこは凡人のあさましさから、本当に魔法の靴なのかどうか早くためしたいと思っていた矢先、北鎌でいっしょだった西村氏（アタゴ山岳会）よりさそいがあったので、とりあえず金毘羅に行くことになった。

11/8 快晴に恵まれ朝8時30分頃より金毘羅でロッククライミングとなった。ゲレンデは2人だけで完全な貸切であった。

登攀ルートは次のとおり、

午前中 (1) 金毘羅北尾根MフェイスKスラブ下の岩場(2ピッチ連続)

下1ピッチ、トップ西村、セカンド川原

上1ピッチ、トップ川原、セカンド西村

(2) 北尾根MフェイスKスラブ(2ピッチ連続)

トップ西村、セカンド川原

Mフェイスは中央クラックより左へまわり、Kスラブは右クラックを登る。

(3) アップザイレンでMフェイス下まで。

(4) Mフェイス左クラック

トップ西村、途中で断念

(5) Mフェイス中央クラック直登(1ピッチ)

トップ西村、セカンド川原

(6) Kスラブ右クラック(1ピッチ)

トップ川原、セカンド西村

(7) 金毘羅本峰へ行き昼食

午後 (8) 本峰下ノコギリ稜(1ピッチ)

トップ西村、セカンド川原

(9) 登攀後クライミングダウンして、同ノコギリ稜(1ピッチ)

トップ川原、セカンド西村

(10) Y懸尾根北壁下部中央(1ピッチ) 最後はハンク

トップ西村、セカンド川原

(11) Y懸尾根北壁上部リッジ(1ピッチ)

トップ川原、セカンド西村

(12) ビビリ岩(1ピッチ)

トップ西村、セカンド川原

登攀はほとんど9ミリのザイルをダブルで使用し、連続登攀で行った。天候も最高で汗もあまりかかず、しかも2人だけなので好きなように登ることができた。しかし、今回も引っぱりあげてもらった感があったし、西村氏のコースをセカンドで登る際簡単な方へ逃げるケースが多かった。クレッターシューズはまずまずであった。魔法の靴かどりかは、これからというところであった。先日の藤内壁の続きではあったが、これからも練習を多くつむように心掛けたいし、金毘羅の全コースを登攀できればと思ったしだいである。しかし、あくまでも技術を上げることを第一として、これからもやっていきたいと思う。以上個人山行報告。

## 例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1503	お月見登山 大文字山	9月13日	曇時々 小雨	武田喜久郎	岡田、横井 辻、上島弘 鷲見、三橋 吉田、武田 F1、大倉F4	恒例のお月見登山、何故か毎年雨降りとなる。それでも行くという好きな連中14名のイキゴミにさすがの雨も根負けしたのか、たいした降りにならず、京の夜景を充分楽しんできた。
1504	中国地方の 山々 大万木山 琴引山 女亀山 ほか	9月14日 ~16日	晴時々 曇	伊藤 潤治	三橋 勉 (大垣山葵 会) 藤井茂雄 石原順次 小西利雄	遊歩道のある大万木山、頂上付近に広々とした高原台地でフナ林の楽しいコースであった。続いて峠道から伐採跡を辿り△976m草の城山に登り、もう1つ展望のよい琴引山に登ったが曇っていて残念であった。翌日女亀山を午前中に登り帰ってきた。 次号報告

1505	鈴鹿 藤内壁	9月14日 ～16日	曇時々晴	岡本 義弘	吉田、大槻、 佐伯、川原 足立、大倉 台川(岡田)	前日、大倉、台川氏が先登され、翌日6名が合流した。岡田部長は岳連講習会役員として参加された 別稿報告
1506	鈴鹿の最高 点 御池岳	9月23日	晴	岡田 茂久	津田、奥村 横井、大槻 方山、沢井 原田、三橋 井上、古市、鷺見、和田 大槻貞、上島、吉田F4	6時すぎ京都を出発したが、車の故障や鞍掛峠の三重県側が通行不能というアクシデントがあり、当初の予定を変更して藤原岳は断念し、全員御池岳めざして登り、車の修理で遅れた後登隊4名とめでたく鈴ヶ岳で合流した。 次号報告
1507	蕎麦粒山	9月29日 ～30日	晴	伊藤 潤治	上島 和彦 大槻 貞従 三橋 勉 (大垣山葵会) 石原、小西、服部	悪戦苦闘の末、時間切れ寸前ギリギリでようやく山頂に立つ事ができた。車止を出発して、実に7時間を要して登ったのである。 別稿報告

## 雑 報

### ▲ 10月集会報告

10月9日(火)

下鴨寮

出席者 O B 奥村、山村

本局 和田、方山、山元、鷺見、三橋

高速 岡田、河合、 九条 古市 梅津 吉田 錦林 武田

大山集中登山についての打合せを行ない、御岳から変更した経過説明があり、当初の集合場所の変更による確認と各自装備のチェックをし、現地で予定の行動ができない場合は変更することもありうるという事であった。

### ▲ 部費受領

10/5 梅津 蛭子野俊雄、棟木敏夫、松井郁天、吉田 武、徳野 治、徳田真三、入江健治郎

10/16 錦林 武田喜久郎、生田敏雄、高窪暉夫

### ▲ お知らせ

今度、退職された渡辺朋子さんより若い人達に使用していただくようにとビッケル5本を戴きました。末長く愛用したいと思います。ありがとうございました。



帆布・瀧布  
テント・シート  
雨合羽

### 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所  
下京区西大路七条下ル  
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

### 京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル  
TEL (801) 1331  
十条店 南区竹田街道十条上ル東側  
TEL (691) 8041  
伏見店 伏見区柏香町西友ストアー4F  
TEL (623) 0824  
山科店 山科区音羽野田町1番  
西友ストアー山科店  
TEL (592) 9770 内線228

### 一年中、山用品だけの プロショップ

営業時間  
午前10時~午後1時と午後3時~午後8時  
(午後1時~3時は閉店させていただきます)  
〈定休日〉 水曜日

山・アウトドア プロショップ



ロケケビン 長谷川 博  
京都市中京区御幸町通  
蛸薬師南入  
(四条河原町・阪急河  
原町より徒歩約4分)  
TEL 221-7569



真の専門店として  
好日山荘は前進しております  
山とスキー用具の  
ことなら御まかせ下さい



確信ある用具を  
確信ある価格で...

好日山荘  
河原町六角下ル東入  
TEL 241-1731

# 山の本

山岳書 電話ノ本にて

無料配送

ゆかり書房

075(801)8333

昭和59年11月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部

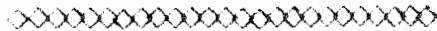


お知らせ

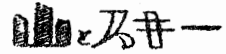
今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

# チロル

移転先 本店2階  
京都市中京区西ノ京町24  
ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい...ネ



のことなら...

☆在庫豊富にとり揃えています  
☆山の道具は せと 御相談下さい  
山とスキー 専内店

## ビッグホリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入  
TEL 222-0363

御婚礼  
御引越



### ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター  
京都市山科区西野山踏町12-12  
TEL (075) 581-3101

本社  
東山区大和大路通四条下ル 541-2345  
興川営業所  
中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター  
厚生会指定  
サンコー クラフト  
西島輝雄

左 川端通丸太町下る下堤町88  
TEL (075) 771-3442



### 山とスキーの店 京都 あるむ

京都市中京区新町三条上ル  
075-255-0288



この用具の事ならユニシが一番です!  
御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ  
そして  
海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1202